

糖尿病用薬について —インスリン製剤—

ひかりが丘薬局

H22.7月号

今月号は、インスリン注射療法について紹介します。

—インスリンとは？—

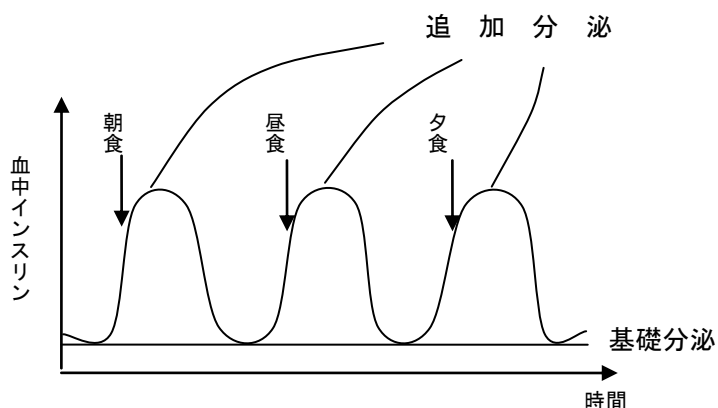
すい臓で分泌されるホルモンの一種。

ブドウ糖をエネルギーとして利用したり、脂肪やグリコーゲン（エネルギーの元になるもの）にして蓄える作用があります。

—インスリン分泌について—

健康な人のインスリン分泌パターンは、2つに分けられます。

- ・基礎分泌…24時間ほぼ一定に分泌している。
- ・追加分泌…食事をすると大量に分泌される。



—インスリン注射療法について—

インスリン注射は、健康な人のインスリン分泌パターンに近づくように使用します。

- ・インスリンがほとんど作られない1型糖尿病では、この治療を欠かすことはできません。
- ・日本人の糖尿病患者の95%以上を占める2型糖尿病では、飲み薬と合わせて使用されることがあります。近年はより良い血糖コントロールの為に早期に使用される傾向にあります。

—インスリン製剤について—

①種類 作用時間によって大きく5種類に分かれます。

	超速攻型	速攻型	中間型	持続型	混合型 (超速攻型又は速攻型+中間型)
作用発現時間	10-20分	30分	90分	60-120分	30分
持続時間	3-5時間	8時間	24時間	24時間	24時間
補う分泌	追加分泌		基礎分泌		追加分泌と基礎分泌

・血糖の状態に合わせてインスリン製剤の種類や投与パターンを組み合わせ使用します。

②使用方法

ポイントを下にまとめますが、製品によって使用法が異なりますので、必ず使用説明書をご確認下さい。

(1) 白色懸濁液の場合は、必ず使用前に十分に混和する必要がある。

* 混和方法は種類により異なる為、使用説明書を必ず確認すること。

(2) 注射前に空気を抜く為、空打ちをする。

(3) 指示されている単位数にダイヤルを合わせる。

(4) 注入ボタンが押しにくくなる為、単位ダイヤルに指が触れないようにし、注入ボタンは真上から押し込

んで注射する。注入後は、5～10秒以上注入ボタンを押したまま保持した後、注入ボタンを押したまま抜くこと。

(5) 注射後は必ず針をはずす。そのまま保管すると注射器内への空気混入や針先から液が漏れて詰まりを起こす可能性がある。

③注射部位

皮下に注射し、血液中にインスリンが取り込まれて作用します。

血液中に取り込まれる＝吸収の早い順から、**お腹＞上腕＞お尻＞太もも** です。

- ・入浴・運動など体温が上がると吸収も上がる為、注射との時間をあけること。
- ・血糖コントロールが変化することがある為、注射部位を決め、その中で少しずつ注射部位を毎回ずらすこと。（同じ部位に注射を続けると、皮膚が固くなり吸収が遅れてしまう。）

④インスリン製剤の保管方法

- ・未使用のものは冷蔵庫（2～8℃）保管。（一度凍ってしまうと使用できなくなるので注意。）
- ・使用中のものは冷蔵庫に入れず、室内の涼しい場所に保管。また、縦にせず、横にした状態で保管することが望ましい。
- ・高温（40℃以上）で変性する為、直射日光の当たる場所や車内などに置かない。

—低血糖について—

インスリン治療中に低血糖症状が起きたときには、10g以上の砂糖やブドウ糖を摂り安静にしましょう。

体調が悪いとき（シックデイ）には、ストレスなどでインスリンの必要量が増えていることが多い為、自己判断でインスリンを中止せず、必ず主治医の指示に従いましょう。

◎シックデイの一般的な注意点

- ・脱水防止の為、水分を多目に摂る。
- ・食事はなるべく糖質（ごはんやパン・麺など）を摂る。
- ・血糖測定をこまめにし、主治医の指示に従ってインスリン量の増減をする。

⇒シックデイの状態は様々ですので主治医に体調の悪い場合の対処法（シックデイ・ルール）を確認しておくようにしましょう。

☆食事・運動・薬の3療法をしっかりと行い、より良い血糖コントロールを実現しましょう☆

